



新造船「第88惣宝丸」の初出港を祝って行われたもちまき。岸壁には大勢の市民が詰め掛け、競い合うように拾った

新造船竣工後の初出港を祝う「もちまき」が十五日、八戸港で行われた。同港では、北航船の新造が盛んだった三十年以上前まではもちまきをするのが慣例だったが、「近年は新造船自体が少なく、もちまきも行われていない」と水産関係者。この日は、そんな物珍しさも手伝って大勢の市民が岸壁を訪れ、新造船のご利益にあやかるごとく、歓声を上げながらもちを拾った。

# もちまきに市民歓声

## 第88惣宝丸の初出港祝う

八戸港

### 国内初2隻体制 巻き網船団本船

もちまきを行ったのは、率型漁業を狙った、国内初の福島漁業(福島内初の二隻体制巻き網船団の本船として「第88惣宝丸」(三〇〇ト)を静めた。岡市内の造船所で建造し、今年十月に八戸港に入港し、十三日には市内で竣工祝賀会を開いた。十五日のもちまきは、福島社長や乗組員が玉くしをささげて航海安全、大漁などを祈願した。この後、大漁旗で彩られた船上から乗組員らが

次々と紅白のもちを投げると、詰め掛けた数百人もの市民が両手をいっばいに伸ばし、競い合うように拾った。日ごろは静かな岸壁は、大きな歓声に包まれた。船は同日、石巻港に向けて仮出港。今月下旬にあらためて、同港から三陸沖でのカツオ・マグロ漁に出漁する。